

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2020/2/6

申請者(リーダー): 氏名 木島陽子 職名 教授

リサーチ・プロジェクト名: 難民居住区におけるネリカ米栽培技術研修の効果
(和文)
(英文)

期間(yyyy/mm/dd): 2019/11/1 から 2020/3/31 1年間

共同研究者: 氏名 中野 優子 職名 准教授 所属機関・部局名 筑波大学人文(備考)
共同研究者1
共同研究者2
共同研究者3
共同研究者4
共同研究者5

リサーチ・プロジェクトの目的

ウガンダImvepiおよびRhino難民居住区に訪問し、現地での難民の生活の現状を知るとともに、今後の研究トピックについて検討する。また、JICAが実施する陸稲(NERICA)の研修についての情報を収集し、今後の研究テーマとしての可能性を検討する。

研究成果の概要(800字程度):

ウガンダは「世界一難民に寛容な国」とされており、2017年時点で140万人の難民(うち100万人が南スーダン難民)を受け入れている。難民居住区内では入国時に僅かな土地が与えられ、そこでの農業生産やその他の商業活動、居住区外への移動の自由が認められている。

調査チームは2020年1月21日から2020年1月30日まで、ウガンダのImvepi及びRhino難民居住区を訪問した。同居住区内には2016年以降、南スーダンからの難民が急増しており、Rhino居住区には約11万人、Imvepi居住区には6万人の難民が生活している。今回の訪問の目的は難民の生活の現状を理解すること、今後の研究テーマについて検討すること、またJICAが行っている陸稲についての研修プロジェクト(PRIDE)についての情報を収集し、今後の研究協力の可能性を検討することである。

現地では、難民の受け入れを行っているOPM (Office of Prime Minister)や、難民支援を行っているNGO(DRC, AAR, Welt Huger Hilfe)などを訪問し、それぞれの組織が行っている難民支援プロジェクトの詳細について聞き取りを行った。また、難民へのインタビューを通じて、彼らの生活の現状についての情報収集を行った。

難民は主に国際機関等からの食糧援助と、入居時に与えられた小さな土地(50m×50 m)から得られる作物で生活している。子どもの学費等のための現金収入が必要な場合には、食糧援助の消費を減らして対応するなど、厳しい生活状況が明らかになった。今後食糧援助が増える見込みはないため、彼らの生活状況を改善していくためには、土地へのアクセスを増やす必要がある。土地は近隣のウガンダ住民から借りられる場合もあるため、今後は難民の土地へのアクセスについての研究を行う予定である。

さらに、今後上述の研究を行うにあたっては、調査に協力してくれる機関が必要である。すでに述べたNGOやJICAウガンダ事務所、家計調査の委託業者などを訪問することで、今後の研究協力の可能性について議論を行い、概ね好意的な回答を得た。今後は研究協力に向かってより具体的な議論を行い、2020年11月締め切りの科研費申請の準備をすすめる予定である。

研究成果:

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項:

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント(RA)雇用に採択されたプロジェクトについては、RAを雇用したことによって得られた研究成果(例:RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。)を必ず記載してください。

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)

(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。)等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	¹ 件 標題	雑誌名 /所収図書 ⁰ の編者・図書 名・出版者等	巻・号 /章・節	発行年	開始 ペー ジ	終了 ペー ジ	⁰ 査読 (有=1)	⁰ 国際共 著 (yes=1)	DOI	⁰ オープン アクセス (yes=1)
1	Kijima, Yoko	Japanese agricultural ODA and its economic impacts: Technological assistance for the rice green revolution in Sub-Saharan Africa	GRIPS Discussion Papers	19-25	2019	-	-	-	-	-
2										
3										
4										
5										

図書:

※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

著者・編者	⁰ 件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	⁰ 件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1				
2				
3				
4				
5				